midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

April 2016 No.416-417

４月号の１枚：新年度、森の看板も手を入れてリニューアル

生きる三要素、空気・水・食料

農・林が別々のシステムで運営されています。これを一体化すべきではないでしょうか。

生きていくために絶対に必要なものは空気（酸素）、水、食料。これを保障してくれるもの。

それは、雨（水）・森（木々）・畑（土壌）。雨水を受ける森・林業と農業が無ければ、「衣・食・住」は確保できないのです。健康な森林を守って、自然の摂理に従った水の循環を守らねばなりません。気候変動など、水産業も今のままでは先がありません。

終戦の年、私は六歳でした。食料に変えてくれそうなものを抱えて両親は遠くまで農家に買い出しに行っていました。兄弟は餓死寸前で親の帰りを待っていました。何も手に入れられない日もあったでしょう。母親に連れられてお百姓さん回りをした思い出も微かに残っています。今、私が生きている事を不思議に感ずることがシバシバです。生かしてくれた両親にどれだけ感謝してもしきれない想いです。その想いが私に森を守る運動にかり出します。森を守れば、空気・水・食料が保障されます。森林率68％もある我が国の第一次産業が衰退しているのが恐ろしい。

何とかして一次産業を元気にせねば私たちの子孫は飢えて死んでいくのです。生き延びるために森を守り良質の水を畑に流し家畜を飼い穀物・野菜を作り皆が支え合って生きていく。そんな生きる術はないかと知恵を絞りながら森と取り組んでいます。今の日本は、農・林が別々のシステムで運営されています。これを一体化すべきではないでしょうか。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2016.04

4月 3日（第一日曜日）：
相模原市民桜まつりに出展するため、
小原本陣の森、知足の森ともに定例活動を行いません。
4月17日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森・知足の森

3月6日（第一日曜日）

春らしい陽気の中にまだ冬を感じる時期ですね。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

3月6日に行われた小原定例活動は、普段の活動とは違い地元の永井さんから依頼を受けた道沿いの木を3本の間伐処理を行いました。また、今回は「知足の森」で活動している地球環境部の中学生たちと一緒にこの処理に参加しました。

初めての場所での間伐処理はいつもとは勝手が違い、倒す向きやロープをかける位置、安全確保などでどうして良いか分からず、緑のダムの方や永井さんの指示を受けて動くことが多く、自発的になかなか動くことが出来ませんでした。しかし、午前と午後の活動で依頼されていた3本全てを間伐することが出来ました。

また、この他の活動として普段の小原定例活動で使用している倉庫の整理を午後に間伐班とは別れて行いました。

今まで小原の方の倉庫はあまり本格的には整理されていなかったため、倉庫の中に何があるのか全員が把握することができていませんでした。なので、今回はしっかりと中のものが把握できるようにリスト化しながら行いました。

整理を始めてみると、今までの活動で出番の多い道具類は状態も良くすぐに取り出すことができたのですが、あまり使われないまたは使われたことがあるのか怪しい道具類は状態も悪く、取り出すのも困難でした。さらに、湿気が多いことによる錆やカビの発生等で使えるか怪しい道具もありました。

しかし、倉庫自体それほど大きくはないので、午後の活動のみですべての道具を調べることができました。調べてもの中には、自分たちでは名前のわからない道具もありましたが、それらは写真を撮り後で調べられるようにしました。

今回の活動において、間伐の方では何時もとは異なる場所での方法や注意点等を学び、倉庫整理ではリスト化などによる管理の重要さを改めて考えさせられました。なので、これからの活動ではそれらのことを意識して色々改善していきたいと思います。

中嶋　竜太（Forest Nova）

[定例活動]知足の森

3月6日（第一日曜日）

今月は森林整備班と合同で知足の森近くの地主さんから依頼された間伐のお手伝いをしました。径も大きかったため、間伐自体はチェーンソーを用いて大人が処理して、中高生が枝を払うという分担が奏功し、あっという間に３本のヒノキを伐ることができました。今回の収穫は、間伐時にこれまでは静止画で撮影していた360度カメラで動画撮影してみたことです。このことにより、伐採する瞬間、誰がどこでどんな動きをしていたのかが一目で分かり、より安全な間伐作業ができるようになるのではないかということです。後日、運営会議で動画をチェックしてみましたが、現地で議論になっていたことがすぐに判明し、子どもたちの安全な位置などについても勉強になりました。また、この動画をプロの林業家に見てもらえばさらに高度なアドバイスをもらうこともでき、活動の幅が広がりそうです。普段なかなか現地に来ていただき、指導していただくことができないので、これならデータを送り、コメントをメールでもらえばいいだけですので、実際にお願いしようと思います。

この日は梅も満開で、地主さん、奥さま、お母さまと同行していただき、お昼には様々なおかずをご用意いただき、ちょっとした花見になりました。子どもたちもそのような用意をしてもらったことで、自分たちがどのように期待され、またその期待に応えねばならないことを実感していたようです。

宮村　連理（本会、理事）

[連載]
相模湖・若者の森づくりから

桂北小学校での環境教育報告

　すっかり春らしい温かい季節となりましたこの頃、頬を撫でる新しい風に心が踊ります。
まだ桜の蕾も固かった3月の上旬、私たちForestNova☆は、以前7月と11月にも行った小学三年生を対象とした森の授業を行いました。この企画は年間を通したもので、今回の授業が最後の締めくくり。その事を踏まえ、授業の内容は前の二回で学んだ自然観察の総復習と、心に強く刻む意味も含めた間伐の二つに定めました。
活動当日。ForestNova☆は学生４名と、OB１名が集まりました。危惧していた雨が未だしとしとと降っていたものの、活動開始時間にはすっかりやみ、無事にはじめることができました。しかし、気温は上がらず、春一番がきたとはいえ立っているだけで凍えるような寒さ。風邪を引いている児童もいたため、急遽、自然観察を簡単なものにし、間伐を行った後は室内で木工体験を行うことにしました。
基地についたらまずいつもの体操。寒がりな子が多いのでここで体を少しでも暖めておきます。暖まったら間伐予定の杉林まで自然観察をしながら向かいます。春の芽吹きがあちこちに見え、夏や冬の時とはまた違った姿を見ることができました。
間伐体験では、受け口等間伐の仕方を最初に習い、その後二手に別れて実際に作業。「まず始めにどうするんだったかな？」とスタッフが子供達に問うと、「受け口をつくる！」と元気に答える姿がうかがえました。細い木のため予想より簡単に倒れるという事態に陥ったものの、その後枝打ちや丸太の輪切りをみんなでしているうちに時間ぎりぎりまで作業に没頭していました。
持ち帰った丸太の輪切りは、午後の図工の時間で木工体験をしたい。という担任の先生からの要望により、予定にはありませんでしたが午後の授業にも参加させていただくこととなりました。ノコギリややすりを使ってストラップやペンダントを作成。時間が足りなかったこともありその時間だけではほとんどが完成には至りませんでしたが、自分達で切った木を使うという貴重な体験をすることができました。
余談ですが、今回の子供達は企画を行う数週間前に森を散策したそうです。学校側が野外活動を多く取り入れていくことは、子供達にとってどれだけよいものになるか。これからも自然とふれあえる環境が子供達の周囲に増えていくことを目指して、活動に励んで参ります。

世持　由美子（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

2月21日（第一日曜日）

テングチョウが舞い、ウグイスやイカルの囀りが森に響く。イチリンソウ、ニリンソウはまだ蕾のままだが、アオイスミレやオオイヌノフグリは今が盛り。カンゾウが両腕を広げたように葉を伸ばす。待ちに待った季節の到来である。

過日の大雪で受けたダメージは思いのほか大きかった。お花畑班は真っ先にモッコウバラのアーチ修復に取り掛かる。（写真、左下）今回はなるべく人工物を使わず、生長しているバラの枝をそのまま利用してのアーチ造りへと方針転換。この作業に丸一日を費やしたが、見事に完成。花の咲く頃が楽しみである。森林整備班は小原地区にある永井広紀会員所有の森から伐り出したヒノキ材を嵐山へ搬送。（写真、左上）軽トラで３回の往復であったが、直径３０ｃｍほどのものを含め１８本が集まった。お疲れ様。「森の積み木」に使いたい。

昼食後、ふと思いつき、キノコのほだ木置き場に行ってみる。するとたくさんのシイタケが顔を出していた。やっぱり春ですね。原木栽培のシイタケは味も香りも歯ざわりも市販のものとは段違い。後で皆に配ることにしよう。

フォレストノバの釜谷君と中嶋君は日がな一日倉庫の整理・片付け。どうもこの場所をアカネズミが住居兼食堂にしていたようで、栗の実の殻がいくつか落ちている。床の隅には出入り用の小さな穴も。道具類のあまりの多さは二人の能力を越えていた。残りの作業は来月に持ち越し。森林整備班も午後からは「緑のダム北相模」の看板修復に掛かったが、こちらも時間切れ。先月とは打って変わって参加の多い地球環境部は１５名がかり。雪で大きく曲がってしまったスギの木７本を矯正。これを「雪起こし」というそうだ。しかし、現場には倒木がまだ１０本以上残っており、これも次回以降の作業となる。（写真、右上）

さて、本日の圧巻は木工班。ついに材の仮置き場の柱と梁が立つ。時間がかかったが、ようやく形が見えてきた。これができれば嵐山の材を安心して保管できる。長谷川大工さんの熱心な指導ぶりにはいくら感謝してもしきれない。（写真、中上下）

終礼後、基地周辺に無尽蔵といえるほどに繁茂するカンゾウを摘んでいる人の姿がちらほら。お浸し、酢味噌和えにするとたいへん美味。シイタケと合わせ嵐山の春の恵みをお土産に持って帰ったのは私だけではないようだ。（写真、右下）

内野　郁夫（本会、理事）

[連載]
緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

「緑のダムに学ぶこと」

高校の同期生というつながりで、緑のダムの活動に参加するようになって６年ほどになる。川田さんの指導方針もあって、小原での作業から入って２年ほど続けた。急斜面での作業のきつさや、力仕事にふらつきながら、山仕事を多少とも実感しながら活動に馴染んでいった。緑のダム北相模の多様な活動は、都市近郊に多い一般の里山保全のボランティア活動と重なる部分もあるが、「林業再生」という理想を掲げているところが違いといえるだろう。通勤経路に近かったので、石村さんのお宅（事務所）を訪ねて、活動の歴史とリーダーとしての彼の熱い思いを聞くことができたのも、理解と魅力を強めることに役立った。

活動に参加するようになって１年立たないくらいであったか、東日本大震災と原発事故が起こり、被害の甚大さばかりでなく、これまでの戦後日本の成功と繁栄を根本的に見直さなければいけない事態と考えられた。そうした中で、緑のダムでは、いち早く支援活動に乗り出す構えをとり、川田さんをリーダーとして、相模原市と連携のある岩手県大船渡市へ、独自の資産である森の積み木を活用する形で２度に渡る現地支援に取り組んだことも、組織の力を示す見事な活動であったと思う。私も同行させてもらったことで、災害発生の数カ月後の生々しい状況に直に触れる機会になったとともに、間伐材活用の一つの産物である「森の積み木」を持参して実際に保育園や高齢者のデイケアで一緒に遊んでみると、実に生き生きした活動の場が作られることも実感できて、これも大きな発見であった。（この支援活動については、前にこのニュースで報告したことがある）

残念ながら、緑のダムでは「森の積み木」による被災地支援という形をくりかえすことはできなかったので、震災の１年後に、私は「森の積み木」のルーツの一つである国際的なNPO法人のオイスカ（OISCA）が行っている「森の積み木広場」という名の被災地支援に同行させてもらう形で、同じく岩手県の気仙沼に行き、より大きな規模で「森の積み木」を活

用したこども支援の活動のすばらしさを実感することができたのである。その後被災地支援としては、緑のダムにも一緒に参加している仲間たちと、福島県の原発事故被災地である南相馬市の社協ボランティアセンターによる避難者留守宅の整理・清掃作業活動への参加を続けている。

震災後５年を過ぎて、放射能汚染による避難指示を解除するという段階に来ているが、どれだけの住民が戻り、地域社会が復活できるのか、新しい段階としてまだまだ現地の困難は続いている。「森の積み木」の活用も含めた被災地支援の可能性を、今後も考えてみたい。

石原　邦雄（本会、会員）

[報告１]
伐根栽培の取り組み

先日の嵐山の森の定例活動では、雪で倒れたスギ（2009年に望星の森に植えたもの）の雪起こしを桜井先生にご指導いただきました。その際、スギやヒノキの伐根（いわゆる切り株）にキノコを植菌する取り組みがあり成果があがっているとお聞きしました。望星の森にも私たちが伐ったスギ、ヒノキの切り株がたくさんあります。桜井先生が副会長をされている大日本山林会にも調査結果が来ているということですので、それらの事例を参考に嵐山の森でも試してみようと計画しています。キノコの販売額が丸太よりも高くなってしまうというううれしいような悲しいようなこともあるらしく、そんなことも生徒と考えてみようと思っております。

宮村　連理（本会、理事）

切り株にできたナメコ

長野県林業試験センターの資料より

【事務局から】

今年も４月２日土曜日、３日日曜日の第43回相模原市民桜まつりの環境ゾーンを主催いたしました。今月号では写真でご報告します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
Facebook：http://www.facebook.com/658588827578641
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版、２２世紀やま・もり再生ネット